

# かとクリ通信 第22号

発行日：平成31年3月1日 発行人：かとうファミリークリニック



## 花粉症の季節になりました

朝晩は冷え込みますが、日の出もだんだん早くなってきて日中も暖かくなってきました。スギ花粉症の方にとってはつらい季節、今年は2月下旬ごろより鼻のムズムズ感を感じる方ができました。

### ●花粉症の薬、どう選ぶ？

ドラッグストアで買えるものも含め、抗アレルギー薬は各種出ておりますが、効果の強さ・眠気の出やすさは様々です。新しいお薬の方が効果と眠気のバランスに優れている印象がありますが、個人差もあります。患者さんによっても「1日1回飲むだけの方が楽でいい」とか「朝晩で飲んだ方が効く気がする」など症状やライフスタイルによってもニーズが異なりますので、ご希望をおうかがいし、点眼薬や点鼻薬も併用しながら、なるべく症状が楽になるようお薬を調整します。

### ●子どもの花粉症

小さなお子さんの花粉症も増えてきている印象です。かぜの症状と見分けがつきにくいことも多いですが、くしゃみがよく出る・透明な鼻水がダラダラ出る・鼻づまりが強く夜中に目が覚める・目のかゆみなどを伴う、などの症状がある場合はアレルギーの関与が疑われます。

大人の方と同様に、症状の強さや眠気の出やすさなどに応じてお薬を選択します。特に子供さんの場合は、薬の種類によって12歳以上から大人の量で内服できるもの、15歳以上でない大人の量で内服できないものなど、細かい違いもありますので、症状と年齢も加味して選択するようにしています。

### ●鼻や眼だけではない花粉症の症状

のどの違和感や咳(アレルギー性咽喉炎・アレルギー性咳嗽)、顔や首・腕などの赤みやかゆみ(花粉皮膚炎)などを起こすことがあります。また花粉だけでなく、PM2.5なども粘膜や皮膚を刺激しますので注意が必要です。

☆長引く咳については、かとクリ通信 第10号もご参照ください。

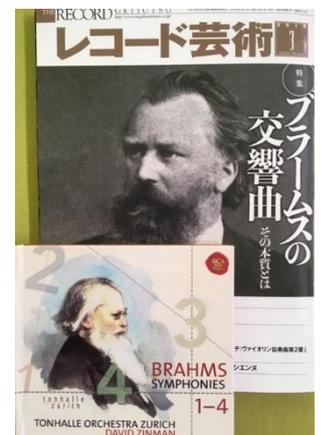
## 院長の待合室 音楽セレクション

最近は大書店に行く機会があまりないのですが、先日久々に覗いてみると今月号の「レコード芸術」(マニアックな雑誌ですね)はブラームスの交響曲の演奏・録音の変遷が特集されていて思わず購入してしまいました(待合室に置いてあります)。

古典主義からロマン主義への流れの中で、ブラームスはベートーヴェンの後継との位置づけで、交響曲の演奏スタイルもドイツ的で重厚長大な味付けが主流でしたが、最近のトレンドは小編成のオーケストラで、作曲された当時の楽器(古楽器)を用いて楽譜や楽器奏法についても当時の史料を研究した「史実に忠実な演奏」(HIP: historically informed performanceというそうです)へと移り変わってきており、同じ曲でも随分と受ける印象が変わってきています。ということで、この機会にまとめて聴いてみたくなり、手持ちのCD(全集で9種類ありました)の中から、現代にふさわしい演奏という視点で選んでみました。

デイヴィッド・ジンマン  
指揮 チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団 演奏の  
ブラームス交響曲全集  
第1番から第4番まで全曲を  
一気に流します

現代楽器を用いた演奏ですが、響きが透明で軽く、解釈もオーソドックスでブラームス交響曲のスタンダードとなりうる演奏だと思います。



RCA 88697 93349 2(3CD)